

電信寫

秘 封

昭和二〇

路

北京 十二月十四日發
本省 十四日着

管二

吉田外務大臣

楠本公使

第一復員省經由甲方參三電第一七四九號

(華人勞務者名簿ニ關スル件)

華北勞工協會接收ノ際中國側ヨリ要請アリタルニ付内地向華人勞務者名簿(地域別全員)作製セシメ取纏メノ上最近便ニテ至急發送方特ニ御配慮相煩ヘシ度

追ツテ當方ニ於テ右基礎資料ヲ當時時局ノ關係上燒失シタルモノナルヲ以テ念ノ爲

通電先次官參考第百十八師團

二、二

昭和二〇 一 二〇五五 平

鹿兒島 本省

十二月十四日一七一〇發
十五日一〇二〇着

連五

鹿兒島縣知事

兒玉總裁

(至急)

(明優丸故障ニ伴フ華人、沖繩縣人處置ニ關スル件)

(明優丸故障ノ爲ニ長崎ニ回航シ爲ニ

明優丸ハ故障ノ爲ニ長崎ニ回航シ爲ニ依リ十一日佐世保へ送還セリ

一、滞留中ノ華人ハ當地軍政官ノ指示ニ依リ十一日佐世保へ送還セリ

二、大陸地區ノ沖繩縣人ハ 縣へ受入方指示ヲ受ケタルモ當地軍政

官ヨリ沖繩縣人ハ還送可能ノ申出ヲ受ケ現在滞留セシメツツアル

カ至急配船方御配意ヲ請フ(了)

137

電信寫

大行
夏

昭和二〇

平

上海

本省

十二月二十日一六一〇 差

發

吉田外務大臣

土田公使

第四六號 (海軍經由二〇一三五九)

(歸還中國工人ノ日本金支拂要求ノ件)

件第四三號ニ關シ同人ハ九州海運局福岡支局發行ノ保管證三十枚

(右額面合計日本金一〇七七一圓)ヲ提出シテ其ノ後連日支持ヲ要

求シ來レリ(福岡海運支局ニ於テハ上海ニテ日本金一圓ヲ法幣五一

元ニ交換セラル可キ旨明言シタル由)本件解決ハ遷延ヲ許ササルニ

付左ノ點大至急御回答アリ度

一、保管證ノ金額ハ何人カ支拂フヘキヤ

一、支拂ノ「レート」

一、保管證ノ處分方法(例ヘハ歸國者ノ持歸リ金ノ一部ニ充當ス可キヤ

否ヤ等)尙本件ノ如キハ事前當方ヘハ連絡アリ度 (了)

外務省

電信寫

大竹君
要

昭和二〇 平 上海 十二月 二十日 一五五五番 發 管

吉田外務大臣

土田公使

第四二號 (海軍經由) 第二〇一三四二番電

(歸國中國人ノ日本金保官證付歸リニ關スル件)

先般明慶丸ニテ歸港セル中國人セキソキン(昭谷番號二十三號編
岡縣相原郡子美町大谷通山第三庚坑)ナルモノヲ日本金七七七圓表
示ノ保官證二九號ヲ付參シ富貴ニ支拂方要ボシ來レルカ支拂元ノ
明示ナク(レイト)モ不明ナル爲本件取扱ヒニ困惑シ居ルニ付何
分ノ御指示相成度向本人ノ甲申出ニ依レハ向庚坑ノチーフマネー
ヂヤ一納竹ヨリ交付サレシモノニシテ向業者分トシテ三一枚ノ保
官證ヲ所有シタル趣キナリ

外務省

略号

至急 有報譯

一月二日 二日二二 五日二二 一日二二 文
二日二二 一日二二 八〇〇〇

次官宛

甲集回参謀長（北京）

甲方参三第千一七八二号

涉外参三第千一七二二号

吉田外務大臣へ 在東京公使ヨリ

甲方参三第千一七二二号ニテ返済

尚甲方参三第千一六六〇・一六六九・及一七二九号参照

追ソテ最近ハ参三第千一六六〇・一六六九・及一七二九号参照

居ラザル爲 参三第千一六六〇・一六六九・及一七二九号参照

兌換スルニ、多ク標額 兌換率ハ一ニ対シ三〇〇

至六〇程交テリ

(終)

外務省
支那派遺軍總參謀長

哈特至急電報



宛 次官

外務大臣 傳 九五三號

日本向及華中より南方方向派遺華工(含渡航家族)

坂田公使ヨリ 華北ヨリ

支那派遺軍總參謀長

十(47)

昭

二二二二
二二二二
一四二二
三三二二
二二二二
二二二二

國歸還後、處遇就テハ外電第一九號及二二〇七
、趣旨則リ其解決ヲ全面的ニ兩國側ヨリ極力打撃
ナルモ現地交渉、ミニ依リ右速急、具體化ハ頗ル見込薄ナル
トラス之が解決ハ前電、如ク極メテ緊急ヲ要ス就テハ當方斯
トモ奴力ヲ致スヘキモ本件ハ結局尙國政府積務トナル關係ニ
リ、單ニ關係各省諒解、ミニテラス貴地聯合國側諒解ナ

電信寫

右行

略 二〇

略

北京 十二月二十二日 一三五〇發
本管 二十三日 一三〇八着

吉田外務大臣

本公使

(甲) 某國參謀長 經田、中万參三電第一七八二號

涉外電第三三號返

中方參三電第一七二六號ニテ返濟

同中万參三電第一六六〇、一六六九、及一七二九號參照

追ツテ最近ハ勞工待給金ノ交換ヲ全然賣却シ居ラサル為勞工ニハ

待給金本國札ヲ市外ニテ兌換スルモイ多キ誤様宛決平八一ニ到シ

三〇乃至六〇程度ナリ

(了)

外務省

終戦五部五深川運送官、
市廳電相宛

七九

昭和二〇 一六六 平

札幌 十二月二十七日一〇〇〇
本省 二十七日一〇〇四〇
四 連

石井事務局長

兄玉總裁
第一一五號

為三郎

（鮮華人ノ本國送還費等ニ關スル件）
左記ニ對シテハ運送車運費ヨリ支辨不能ト思量セララルモ如何處
埋スヘキヤ何分ノ御心電請フ

記

本信配布見

白

為三郎

一、鮮華人ノ本國送還費假設並ニ出港地ニ於ケル宿舍費ヲ含ム
二、勞務者ノ台價所加設備、千威ノ元海軍士自官舎内ノ電燈配線工
事費

（了）

電信寫

19274
2909
95
26
+ 66

22370.

收締セルモノ計九〇九名 警察ニ收締セルモノ計九五名 病院ニ收
容セルモノ二六名 失明ニ爲救済機関ニ收容セルモノ六六名之ハ炭坑鑛
山ノ地下労働ニ從事スルノ日先ヲ見ズ以テ盲タルモノナリ 帰郷者

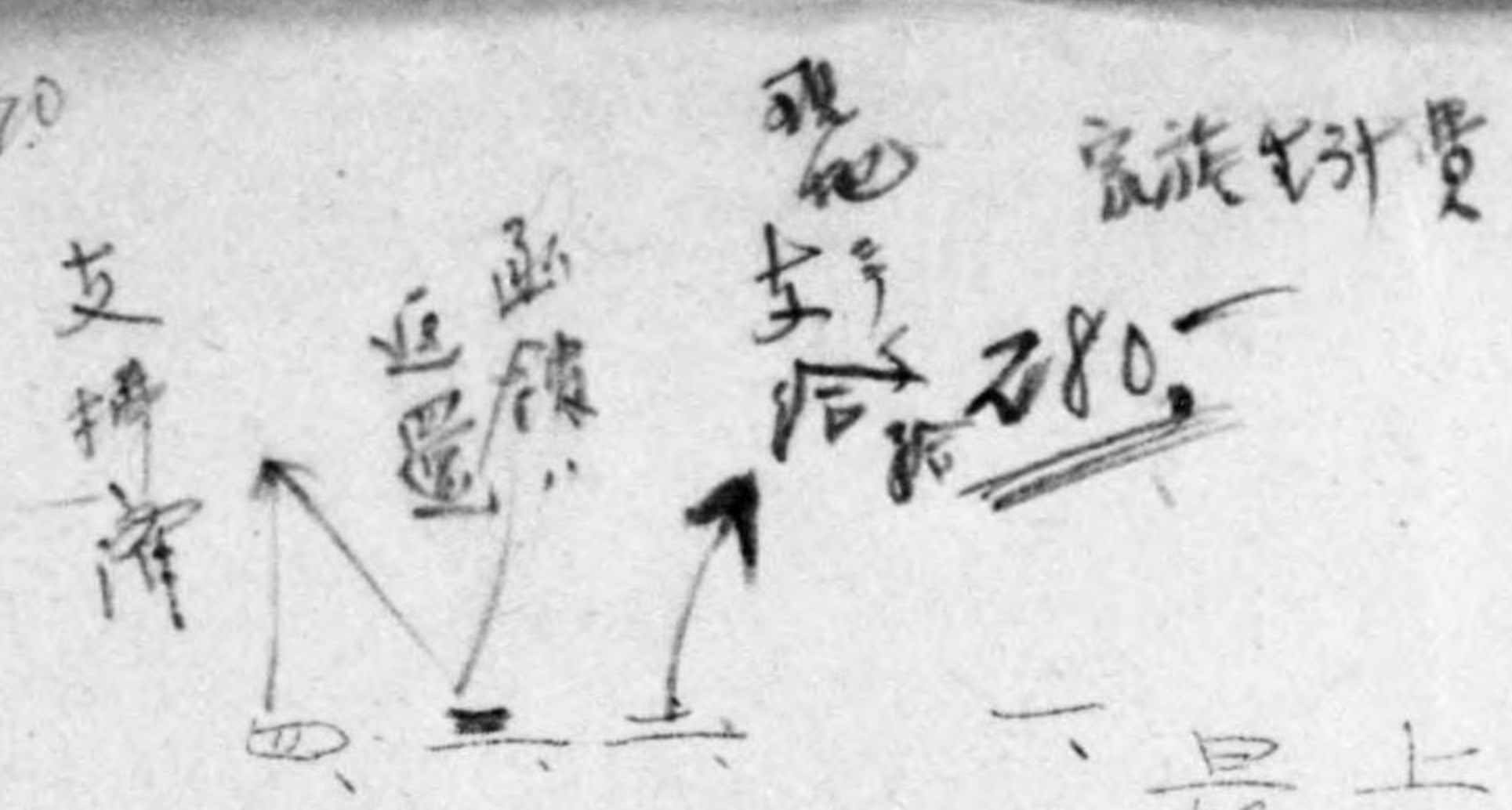
ハ一九二七四名ナリ

本管理處ニ於ケル收支統計(收入ニ於テハ) 聯銀券四六六九六〇七二〇元 及
法幣一五〇〇〇元 支出ニ於テハ(勞工資金、慰勞費、辦公雜費及加給
戰菜金等ヲ含ム) 聯銀券三〇六六一二一七五元 及法幣一四九九三一元 結
局殘高ハ 聯銀券一六〇三四八五四五元 及法幣 六九元ナリ、 勞工用
食糧收支統計(日本側ヨリ交付セルモノ) 二號麵粉三三二一袋、 高粱一
三七袋 市政府ヨリ支給セルモノ 二號麵粉二五〇〇袋、 三號麵粉二二一五
袋 給食済モノヲ除ク 結局殘高ニ於テ 高粱一三三七袋、 二號麵粉
九三五袋、 三號麵粉二二一五袋 此外尚日本側ヨリ交付セル綿衣八三三〇
〇枚 支給殘高 一五三五枚、 煙草八六〇〇〇本、 内支給殘高 六九六
九五〇本、 ヲツチハ三三〇〇箱、 内支給殘高 八四五三箱ナリ

通電先 東京、 南京

(終)

2070



陳華 130,000.-
一行九名

略號至急電報

宛次官

登集參電第282號

登集團參謀長(上海)

一 昭
二 一
三 一
四 一
五 一
六 一
七 一

上海第七海軍實業第27183番號(第50號)關聯
最近歸還セル秋田派遣軍工代表ハ

一 昨年二月以降毎月手取額(200圓)ト月給(300圓)ト

差額支給

オーパーション帽子ノ支給

配給物資ノ代金返還

交渉ニ要セル代表ノ旅費支給ヲ新ニ要求シ來セルガ石ハ系

館巡警区船舶派遣軍工ト同等ノ待遇ノ要求ナリト述

港運業會
稀垣氏

植業費 47,134.20

賃金 22,701.-
2,989.50

堂上 23,990.-

加二端分
加付加算代 6,587.-

旅費 2,300.-

見舞金 1,000.-

10,6701.70

支辨済

以上ニテ解決

陳華一行 12月中旬

佐世保一青島 (終)

LSTニテ帰3:

21

通電先 策復員者
多々 参 考 支 總

✓
一週間以内ニ同賃ナクハ事情不分明ノ一語不明ニテ人要求イ
通中國政府ヨリ借入支給ノ他ナキニ付諒承アリ度
ハ居リ又東京ニ於ケル港運業會關係者トノ會談ニ就
テハ「語不明」支辨ヲ受クベク旨指示アリタリト稱シ居ル
モ右ハ外務電某一ノ號ノ趣旨ト相違スハノミナラス今後ノ
交渉ニモ重大ナル關係アルニ付事情至急調査ノ上月賃
アリ度

鉄道調査
21456名

中三部長

電信寫

昭和二一

平 佐世保

一月十六日
十六日

發 管
着

兒 玉 總 裁

河原事務局長

第三四號 (警察無電經由)

(華人勞務者送還ノ件)

アマカスヨリ管理局第二部長へ

華人勞務者送還狀況左ノ通り

十二月一日 (二六三二) 三日 (三一二八) 五日 (一〇四六) 七日

(二九七八) 九日 (二八四七) 十一日 (一五九一) 内中支向 (四

三八) 十三日 (五六) 二十四日 (一三) 合計一四二九一 (内中支

向四三八) 尙中支向四三八名ハ鹿兒島ヨリ送還ノ豫定ナリシモ配

船ノ都合ニヨリ當地ヨリ送還セルモノナリ (了)

配布先 次官・管局長・管二・文・電・次長・秘・5ノ三三

外 務 省

146

返電稿

略號

普通電報譯

一月二日一九〇〇年
一月五日 〇三三〇番
二五日 〇八三〇番
一五三〇日 〇五

20

次官宛

登部隊冬令課長(上海)

登集冬令三〇二号

日本派遣華工二封の撫恤金支拂上必要三付

当地ヨリ日本港運業会板四〇四名及日華

労働協会板一五〇〇名、泊地名分伝至急送

付セラレ度

尚管理部諸給與支拂状況返電セラレ方

通電先

第一復員省

次官

(終)

外務省

147

略報

普重智報譯

一月二四日一三〇〇年 二八〇〇四〇〇文
二七〇二五〇〇看 一五〇〇具

次官宛

外一三方面軍參謀長(上海)

登参号加三二之号

上田公便ヨリ

外務次官へ

外務号加四之号(案察)

一、華工側、要求甚ク可列ニシテ(二語不明)

一二一七〇〇申越、返ラ技用ヒシモ肯セサル依リ

日僑管理處、裁定ヲ仰ギタル處 保管証三〇

枚、券面金額一〇六五九条ニ付(一)法幣

三〇萬元及ビ(二)日本金一条ニ付法幣一五一元、

比率ヲ以テ法幣三〇萬元ヲ換算シタル額ト

外務省

右ノ一〇六五九キトノ差額 日本金 四七七七キヲ
 支拂フベキ旨ノ決定アリテ二十日解決セタリ
 二 穀次ノ請訓ニ拘ラズ遠ニ換算ノ率ノ決定ヲ見
 ガリテ結果止ムヲ得ズ中國側ノ裁定ヲ仰ガ
 タル次チニシテ当地ニ於ケル華土ノ懸念ヲ諒察
 ノ上追認並ニ右保管セシメ取ノ處理ニ関シ
 至急指示相煩マ
 通電云 加一復員省 支後
 (終)

外務省

保管之之ニ対シテ発行セルモノニシテ今直々ニ支拂ハル
ベキモノニ非ズ 其ノ處理ニ付テハ「マレ」司令部ヨリ其ノ
後何等ノ指示ナク未定ナリ

ニ、貴電申越ニ依ル支拂ニ付テハ其ノ狀況上己ムラ
得ザリシモノトハ被認モ 今後ノ前例トナラザル
様措置サレ度

行施	裁決	案起
昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	昭和二年一月五日
課務主		房官

一 詳長 中川

主任 本

上海宛

南方派遣 華工ニ関スル件

戦時中南方各地ニ派遣セラレタル華工中
 現在未帰還ナルモノニシテ 貴地ニ於テ判明
 セルモノニ付 左記事項報告アリ候。

内閣

左記

- 一、派遣セラレタル年月日
- 二、派遣セラレタル人員数
- 三、派遣ヲ斡旋シ又ハ實施シタル機関
- 四、最初ノ受入地又現在ノ所在地
- 五、最初ノ受入者又現在ノ管理者
- 六、受入地ニ於テ從事セル工作ノ種類
- 七、派遣セラレタル者ノ帰還ニ際シテノ上陸港
- 八、現状ニ就テ得タル情報
- 九、其ノ他参考事項

昭和二十一年一月二十五日

上海苑

南方派遣軍工ニ関スル件

戦時中南方各地ニ派遣セラレタル軍工中
現在未歸還ナルモノニシテ、貴地ニ於テ
別明セルモノニ付、左記各項目報告アリ及

左記

- 一、派遣セラレタル年月日
- 二、派遣セラレタル人員数
- 三、派遣ヲ斡旋シ又ハ実施シタル機関
- 四、最初ノ受入地又現在ノ所在地
- 五、最初ノ受入者及現在ノ主任者
- 六、受入地ニ於テ從事セル労務ノ種類

二月六日 守

七、派遣セラレタル者ノ帰還ニ際シテノ上陸港
八、現状ニ就テ得タル情報
九、甚、他参考事項

折居院 阿毛 五六
二〇、一、二四

年月日

坊所

船
送
傷
骨

振名

上海 蔡 伯勳 三五
七、二九

り
早
榮
性
痴
呆

廣東 莫 慶 四四
二〇、八

替
印
心
臟
麻
痹

第一次轉配華工死三篇

1. 二番 胡山 三六才

昭和貳拾年四月四日死云。

肺浸潤系右手背前面にギョエー云河邊

2. 七番 李鳳歧 三〇才

昭和貳拾年四月七日死云。

肺浸潤

3. 一三番 何阿富 二九才

昭和貳拾年四月二十三日死云。

左大腿部骨膜炎

4. 四番 楊承德 三五才

昭和貳拾年五月七日死云。

肺浸潤

5.

二九番 陳文景

二三才

五月十三日死云。

右大腿部肌肉炎體毒症

6.

六二番 劉阿大

二七才

五月二十日死云。

心臟麻痺

7.

七三番 葛明

三六才

六月二十五日死云。

黃疽

8.

八四番 嚴錫林

五四才

六月二十七日死云。

9
肺浸潤
一審 毛阿表 四七才

七月六日死云
急性肺炎

10.
二七審 張毛毛 四八才

七月三十日死云

肺浸潤

11.
四七審 杜永山 二四才

八月十六日死云

急性胃腸炎

12
八三審 盧光 二九才

九月八日死云

急燥助膜炎

13. 三四番 陳正郎 三十一才

九月十日死云

膽體炎

14. 七四番 董凱倫 三十七才

拾月十日死云

脾臟肥大症

15. 八九番 范念中 三十九才

拾月二十三日死云

膽石症

計 拾五名 死云

以上

電信寫

清
大井
氏

略號

普通電報譯

第四六號

次官宛

發信者 登部隊參謀長(上海)

登集參電第四九四號

ニニ〇一ニ五〇發
ニ八一七〇〇着
ニ三四〇〇受
三六四三〇點

外務次官へ

港運船會扱件? 派遣華工第二小隊長劉ヨリ左記要求アリタルニ付

本件ニ對スル處置至急返電アリ度

左記

(1) 日華勞務協會扱分ニ對シテハ二八〇〇圓乃至四〇〇〇圓解散手

當支給アリタルモ港運船會扱分ニ對シテハ支給ナカリシニ依リ

支給スルコト

(2) 死亡者二二 不具者五 負傷者九ニ對スル手當ヲ支給スルコト

(了)

外務省

不明
不當
手當支給

161

電信寫

配布先

次官、管理局長、管在外、大陸、管經濟、大陸、文、
電、次長、總部長、五部長、祕、5ノ三

外務省

162

要
部

電
信
案

大
東
亞
省

總 番 第

號

昭 和 年 月 日 前 後 時 分 發

宛 暗 先 電 轉 名 件

略 平

第

號

及豆部隊參謀長宛

發

記 錄 件 名

港運業會坂
華工二周二件

主 管
局 長

主 管
課 長

起 案
者

昭 和

年

月

日 起 案

電 信 課 長

發 電 係

在外邦人部
大佐深長
中川

規格-B5 (東東 3.195)

163

双登集券^券電 中四九四號ニ属シ

港運業会板 日本派遣 華工ノ 就カセル

地名^{折返し}電報掛アリ云。

電
言
察

大
原
臣
督

渉外電一六二(三二二)打電済

又立部隊参謀長宛

又立集参電 不四九四部二周

港運業会扱ニ 日本派遣 草ニノ 就カセル

地名折返ニ 電報アリ候。

電言

大東電

昭和十九年九月ヨリ昭和二十年九月迄ノ月給
 支拂ハ募集時ノ約束ト異ルニ付其ノ差額ヲ
 請求ニ關シ東京ニ於テ賤ト交渉(本件ニハ
 在東京中ノ將校及「マツクアース」司令部
 部ノ關係官立合タリト稱シアリシレテ
 其ノ同意ヲ得タルモ右金額ノ支拂ハ得
 小ノ上中ノ政府ヲ面シ日本政府ニ要求スル
 如ク指示アリタルニ付其ノ儘歸小セルモ
 二十四日日本側機関ヨリ支拂ハレタレ
 不測ナルトキハ正式解決迄ノ工人生括費
 ヲ取得ス
 二、右事實否承リ交 追ッテ當方トシテモ相次
 此ノ様子情ハ全ク不分明ノ問題ヲ突然

外務省

提起セラレ而モ其ノ解決ヲ迫ラレアルニ付
十ノベク事前内地ニ於ケル交渉状況
ヲ通報相願ハシ交申添
通官先以官
支後
終

外務省

電信寫

略

號 至急電報

昭二一、二、二六

下

二五〇七〇〇發
 二〇一〇〇〇着
 二六一〇〇〇點受

死 次 官

登部隊參謀長（上海）

登集參電第四八七號

一、内地派遣華工ニ對スル善後處置ニ關シテハ歸還時内地ニ於テ解決セ

テルル筈ナルモ最近相次テ歸還スル華工ヨリ左記内容ノ要求アリテ

困惑シアリ

記

(1) 細部未解決事項

(2) 支給金ノ不平均ニ基ク要求

(3) 負傷者、死亡者ニ對スル手當

善方トシテハ本件ノ性質ニ鑑ミ中國政府ヲ通シ日本政府ニ要求スヘ

外務省

電信寫

ク旨應答シアルモ中國機關トシテモ速急ニ處理シ得サル事情存シ
自然當方ニ對シ要求スル結果トナリアリ

當方ノ窮狀了察ノ上萬事解決ノ上歸國セシメラレ度

尙其ノ處理狀況ヲ豫メ當方ニ連絡スル如ク關係方面ニ傳ヘラレ度
通電先 一復

參考 支、甲

配布先 大臣、次官、管局長、管總、總、文、電、次長、
五部長、祕、總ノ一、1ノ一、5ノ一、三三、

外務省

電信寫

南洋海(連)丸内八重井七
 丸内(三三)三九分五三三〇
 五三三二、五三三五
 去光興(光光佐三)
 丸内(三三)五九三八

略號 至急電報

宛次官

總參電第四五七號

一 登參電第四九九號轉電

一 兩方及日本派遣華工問題ノ處置ニ關シ舊正月前緊急措置トシ

テ左記ノ如ク支拂ヲ爲シ之ガ資金ハ當地(二語不明)公使名

義ノ借用證(一寫ヲ廻般本城主計大佐携行ス)ヲ交付ノ上當地

居留民ヨリ借用セリ

二 本件ハ涉外電第一七號訓令ノ趣旨ニ基キ我方關係官民ヲシ

テ流血ノ慘事ヨリ免レシメンガ爲メ緊急ノ非常措置ナルニ關シ

貴方ニ於テ善處方詭慮アリ度

昭

二	二	二	二
一	一	一	一
二	二	二	二
三	三	三	三
四	四	四	四
五	五	五	五
六	六	六	六
七	七	七	七
八	八	八	八
九	九	九	九
十	十	十	十

着發
 點交

支那派遣軍總參謀長(兩京)

外務省

左記

一、支拂金額内譯

七百拾四万九千	法幣	三〇七三五千元	國際運輸	四一四萬元	(四七六名)	八千八百拾五元
六百八拾二万五千		三五五五千元	(四五五名)	七千八百拾三元		
六百五拾五万四千	山九運輸	二七七五千元	(四三七名)	六千三百五拾元		
五拾八万五千	南洋海運	八五千元	(三九名)			
二拾七万九千	出光興産	二七萬元	(一八名)			
四百八拾六万五千	日本港運業會	四八六五千元	(有家族二八四名)	車身者一二一名)		
四百五拾四万五千	日華勞務協會	四五四五千	(九〇九名)			

計 八千二百三拾三万五千九百

- (1) 日本港運業會 拔單身者一二一名及日華勞務協會 拔九〇九名
 二八一一人 宛法幣五千元 其ノ他六一一人 當一萬五千元 支給セリ
- (2) 港運業會 拔有家族者二八四名ニ對スル家族生計補助費 追給
 ハ 今同ヲ以テ 打切リ 自今日本派遣工員ニ關スル紛議ハ一括

284
121
405

日本政府對中國政府間ノ交渉ニ委スルコトトセリ

(5) 借入額二二五〇萬ヨリ右支拂額ヲ差引タル殘額ハ昨年未緊

急借用シタルハ六語不明ニ充當シタリ

上海ヨリ前項ノ如キ電報ニ接シタル所現地ニ於テハ中國軍管側ノ好意的態度ニモ拘ラズ未ダ解決ヲ見ルニ至ラズ更ニ非常措置ヲ以テ緊急斷行ノ止ムナキニ至ルヲ豫想セララルル狀況ナリ

就テハ中央ニ於テ右電ノ既借入支出額ノ豫算取得ハ少クモ豫算積算ノ確認一方取計相煩度

尙現地居留民ハ右豫算取得セララルルニ於テハ更ニ資金貸出ノ用アル趣ニテ斯クナレバ我方關係官民ノ身邊ノ危險排除ハ固ヨリ問題ノ解決モ大イニ期待セララルルニ付右事情賢察ノ上至急配慮相煩度御願ヒス

(終)

配布先 大臣、次官、各局長、總務、管在外、大陸、管經、大
文、電、總一ニ、一ニ、五ニ

一、居留民借入額

法幣 四〇〇三三、〇〇〇元

(内未官決裁)

三四、一六四、三〇〇元

二、支出額

(一) 國際運輸

一一、六六一、〇〇〇元

二二九名

(二) 日本聯合

八、七〇九、〇〇〇元

二五五名

(三) 山九運輸

七、二一五、〇〇〇元

一八五名

(四) 北光興産

七二〇、〇〇〇元

四五名 (内支那人員一八名)

(五) 南洋海運

八八五、〇〇〇元

三九名

(六) 日華勞務協會

四、五四九、〇〇〇元

九〇九名

(七) 港運業會

一一、三六〇、〇〇〇元

二八四名 (有家族)

二〇〇五、〇〇〇元

二二一名 (子弟)

合計 四七,一〇〇,〇〇〇元

外
務
省

175

新朝軍

平井調査部 (三部)

直シテ款上ル

8/3 江川俊貞直

昭和二一、三、七

案 電

報

三六四一
七〇二一〇八
九〇三二五
〇五〇五
點受著

死 次 官

登 築 團 參 謀 長 (上海)

登集參電第五一一號一電註、三月五日配布未著分)

上海七田公使ヨリ

外務次官へ

華工問題ニ關スル件

一、一月中旬歸國セル港運業會秋田派遣華工第二小隊代表劉乾

十電註。以下既配布ノ分ニ繼ク

青島
伊予

恩惠印紙 家放先計費
 AYB P 211 / 280 月 31 日 当 = 行 家 放 帳
 外 = 先 任 家 代 表 カ 上 海 = 配 行
 大 使 館 1 承 理 行 街 ~~家 放 帳~~ ト 1 本 ~~30 日~~
 建 行 280 日 " 未 押 = P 32

略 號 緊 急 電 報
 昭 二 一
 昭 二 二
 昭 二 三
 昭 二 四
 昭 二 五
 昭 二 六
 昭 二 七
 昭 二 八
 昭 二 九
 昭 二 十

定 次 官
 登 集 參 電 第 五 一 一 號 (電 註 一 部 未 著 ナ ル ニ 配 布 ス)
 登 集 團 參 謀 長 (上 海)

(電 註 一 部 未 著)

上 海 市 社 會 局 立 會 ノ 下 ニ 上 海 派 遣 員 ニ 支 給 セ ラ レ タ ル 生 計
 費 ハ 恩 惠 ニ シ テ 月 給 中 ニ リ 差 引 カ レ タ ル 二 百 八 十 圓 ハ 未 拂 給
 料 ナ ル テ 以 テ 支 給 ア リ 度 ト 要 求 シ 来 レ リ
 二 百 八 十 圓 差 引 ニ 関 シ 工 人 ト ノ 契 約 及 貴 地 ニ 於 ケ ル 代 表 ト ノ
 纏 理 経 緯 等 返 電 ア リ 度

通 電 元 一 復 參 考 支 總

家 放

電信寫

加
本行事務

昭和二一

七六五

平

川室
本台

三月八日一八〇〇
九日〇九〇〇

連一

吉田 總裁裁

武藤事務局長

第五三號（主急）

（朝鮮人、支那人ノ暴行ニ關スル件）

貴電台番八〇號ニ關シ

宮城縣、山形縣、岩手縣ノ報告左ノ通り轉電ス

秋田、青森ノ分按判次第電ノ報ス

（宮城縣

一、暴行事件ノ例

(1) 一月十五日東北本線下り列車ニ乗車セル鮮人一二〇名ノ一

團ハ市内沼津通過ニ際シ列車窓ニ掛ケアリタル朝鮮國旗ニ

對シ鮮員カ惡戯ヲ爲シタリトテ同鮮長至ニ侵入シ鮮長ニ對

シ毆打暴行ヲ加ヘ負傷セシム（本件類似事件他ニ五件）

(2) 右ノ外縣村役場郵便局等ニ侵入暴行セル事件數件アリ

外務省

二、動向

取ハ團體ノ威力ヲ藉リ此ハ兇器ヲ以テ威嚇ノ標等暴行スル等
戰勝國ヲ高ニ不穩ノ行動ヲ止メス

三、進駐軍ノ協力

事態發生又ハ發生ノ惧レアル場合ハ時々其ノ内容ヲ宮城軍政
部保安課長ニ報告其ノ程度全幅的協力アリ「MP」ノ積極的
協力を待テ警備取締ヲ實施シ居レリ

(二) 岩手縣

一、朝鮮人

(イ) 二月三日宮城旅館)ニ於テ朝鮮人四名ハ同宿日本人六名ニ
對シ暴行ヲ加ヘ全治十日ヲ要スル損傷ヲ與ヘタリ

(ロ) 二月二十四日盛岡市居住ノ朝鮮人數名ハ一派ニ於テ同志打ヲ
爲シ負傷者一名ヲ出セリ

二、臺灣人

(1) 二月十三日盛岡市ニ於ケル臺灣人八名ハ日本人一名ニ暴行ヲ加ヘ傷害ヲ與ヘタリ

(2) 盛岡市ニ於テハ臺灣人数名ハ日本人一名ニ對シ暴行ヲ加ヘ傷害ヲ與ヘタリ

三、動向

(1) 朝鮮人ニ依ル暴行事件ハ最近減少ノ傾向ヲ示シツツアリ
(2) 臺灣人ハ些細ナルコトヨリ集團暴行ニ出ル傾向ヲ示シツツアリ

四、進駐軍ノ協力

本軍ハ能ク警察取締リニ協力シ、ノ(1)ノ事件發生ニ際シテハ軍政部長自ラ説諭等ヲ爲ノタリ

(三) 山形縣

官下ニ著シキ事例ナシ

(了)

配布先 次官、總、音局長、總總、管總總、北方、文、電、次長、總、一、五部長、帳、總、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

大竹平野路官邸
平野調査官邸

大野俊之助

陸軍

略誌

江川俊貞

至急電

三月十五日

次官宛

登部隊參謀長

登參電第六七二號

登參電第六七號

一、其後社會部ト工人側トノ向ニ於テ折衝セラレアルモ社會部ノ内談ニ依レバ南方派遣華工ハ死亡者一人宛法幣六〇萬元生存者四〇萬元日本派遣華工ハ夫々五〇萬元ニ〇萬元(總額法幣七億七千萬)要求シテ容易ニ讓ラザル趣アリ

二、社會部トシテモ此等工人ノ要求ヲ過大ナリトシテ審議中ニシテ從フテ工人家族等相變ラズ當方ニ對シ厭ガラセ的強迫態度ヲトリワアリ

(終)

了承

電信寫

在外邦人部長

加

略號 至急電報

宛次官

登錄參電第六九五號

登錄參謀長（上海）

昭三

一一二
八七六一

一〇二一三
一九三共一
五〇〇三一
〇〇五五八
點受著發

南方及日本派遣華工問題ニ關シ十六日社會部ノ内診ニ依リ第五十九師團代表ヨリ南方派遣分死亡者三十萬元、生存者二十萬元、日本派遣分夫々十五萬元十萬元（何レモ法幣）ノ最後讓歩案提出シタルニテ右額支拂ノ可否ニ付目下中國側各機關ニ於テ検討中ナリ

通電先 總、參考一復

（終）

外務省

右記

事務

略號 至急電報

宛次官

登集參電第七二三號

登部隊參謀長(海)

三	昭
二二	二二
二二	一一
一〇	二〇
三三	三八
二〇	三〇
PP	PP
疑	著
疑	疑
16	

外務大臣へ

土田公使ヨリ

日本郵便
上海支店長

南洋海運所屬「南進丸」乗組中國船員、在上海豪族救恤ニ
 関スル稟内務大臣ヨリ指示アリタルモ、現地南方及日本派遣
 委員、救恤ト同様中國政府ノ查定ニ支拂ヲ受ケ將來國家
 賠償ニ繰入ル他解決ノ道「語不明」關係各方面ニ然ルハノ諒
 知方取計相成度

通電先
 参事 總
 次官

(終)

全為事務官殿

左の

昭和三十二年三月二十六日

為付

支那派遣軍総司令部

総務課第六十九號

中口陸軍司令部指令

政字第六十六號(三月二十五日)

總運務第一〇四七號申請(一復電第三)

八號第二項(二係の二)南方振興(華工等)

議ノ件ノ取外支那ノ對シテ英創行協力

スヘク請ホセ)

通告之 決定登

送郵

一平井

急電

（不肖者不肖文）
（伊人別）
（不肖者）

上海出身者

早方

地通者

（不肖者）

電信寫

急電

急電

急電

三月三〇日二二〇〇發 〇八〇〇受
四月二日〇〇一〇着 一五三〇點

次官 第

登錄參謀第六〇七號

登錄參謀長

外務次官ニ傳ヘラレ度

南方及日本派遣華工問題ニ關シ最近ニ至リ中露兩ハ本問題解決資金

ヲ立替支拂ノ件略々承諾セルモノノ如シ、目下駐會部ト勞工代表ト

ノ間ニ於テ支拂金ニ關シ折衝上必要ナルニ付日本華工（日華勞工

報告及雇遣契約）ニ對シ支拂セラレタル上及死傷ニ對シ

積金ノ個人カ支拂報告方要求アリタルヲ以テ本問題ニ關シ

セルヲ以テ至急返答ヲ請フ

急電先、次官 參考、支拂

大巨、次官、總務、管理局長、總務、總務、管理局長、總務、總務、

方、管理大臣、管理局長、在外、大使、管理局長、南方、文、次長、管理局長、

管理局長、總務、總務、總務、總務、總務、總務、總務、總務、總務、總務、總務、

外務省

電信寫

工部局

略號

全 電 報 譯 四月二日四〇〇發 五一九三〇發
四日二六一〇著 一〇三〇點

第一九號

真

次 官 宛

發信者支那派遣軍總參謀長

總參電弟八四二號

中方及日本ニ派遣セル華工問題ニ就テハ中央及上海現地軍官ノ努
力ニ依リ登參電第七三六號ノ如ク日本賠償ニ繰入ル前提ノ下ニ中
國側所要資金ニ據ルベキ段階ニ立至リタル當方近ク中國政府ヨリ
正式通告アラバ右ノ場合ニ於ケル通り承諾ノ外ナキモノト思テシ
ルニ付諒承アリ度

尙本件解決ノ爲一部關係者及之ニ對スル直接參事官等大使館關係
會が屢々身上命ノ危險ニモ當面シツツ終始絶大ナル努力ヲ餘儀ナ
ク惜マザリシコトヲ重ネテ報告ス

配布九

大官、次官、管理局長、管線總、文、電、次長、給糧、
給政、總務部長、給祕、給管總、邦、内

外 務 省

248

187

電信寫

下
57
2
五

至急電報

昭二、四九

四五一〇三〇發

八一三〇三着

八一六〇〇受

九一〇〇〇點

7

上海乘船地參謀長（上海）

知次官

外電第一七四號返（四月三日現在）

后留民借入銀幣四〇〇三二一〇〇元（內決裁ラ次官ニテ決定ス）

船（原所屬南洋海運及中華出光興産）務協會外陸海軍ノ費用

五名八七〇九九名一六六一千元（以下單位同シ）日本聯合二五

二名八四名一三六〇同家族一二一名二〇〇五日華勞務協會九〇九

名（一）還工人ノ申出ニ依ル（四五南洋海運三九名八八五中）

出港四五名（一）支拂員數一八名（七二〇、一人當リ支拂員ハ歸還

狀況ニ依リ必スシモ均一ナラス

支拂總額四七一〇〇千元

配海員
布先
先
管次官、管理局長、絡管總、邦、管在外大陸、文、次長、絡

外務省

在外郵長

電信寫

至 急 報 誌 三月三〇日一、三〇 發 三一日二一、三〇 受
三一日二一、〇〇 差 二日一三三〇 點

次 官 宛

登 集 國 參 謀 長

登 參 號 第 七 七 六 號

一、南方及軍政部派遣華工問題ニシテハ目下中露兩管及機關ニ於テ其ノ都度進メ結局南方派遣ハ死亡者二十五萬元、生還者十五萬元、日本派遣分ハ夫々十五萬元、十萬元（既支額）ハ何レモ上計ノヨリ差引クコトニ決定スルモノノ如シ

二、南方派遣分濟問題ナキモ日本派遣分ニ因シテハ歸還工人カ自ラ中露政府ニ請願シタルモノニシテ中央ヨリハ内地ニ送ケル支拂ハ完了セリトノ來電アリテ歸還工人ノ主張トハ結遠アリタルヲ以テ

三、會部當事者ハ當方ニ對シ昭和二十一年支拂ヒ狀況報告提出必要ニ付屢々要求アリ當方ハ中央ニ對シ昨年以來數回ニ亘リ請願シタ

外 務 省

外務省管理内中

29/4 復終

陸軍

宛次官

陸 上海東船地産謀長

上海電第三八号 (緊急)

涉外電第 一六九号 周聯

一本電ハ派遣華工全体ニ対スル内地支拂状況ニ関シ

当方ノ希望セシ具體的説明ニアラス 且昨年冬末ヨリ

屢次、互ル当方ヨリ、照会ニ対シ内容及時期的ニ満足スヘ

キ回答ナキハ遺憾ニシテ 中国政府ニ於テハ 帰還工人ノ

心情ヲ斟酌シ 登各電第 七六六号ノ如ク 裁定セントスル

ニ至リタル次第ナリ

二 中国側ニ対シ本電ノ趣傳ヘ置キタルモ 交渉好転資料

トハナラス 結局 前電ノ裁定ヲ承認セサルヲ得サル

ヘシ

三 若シ飽、迄 中央ノ意向ヲ貫徹セニトマハ 中央ヨリ

日本ヨリ、多クモ 派遣マラルルカ 又ハ 中央ニ於テ 中国

政府 駐日代表ヲ 通シ 直接 中国政府ト 折衝セラルル

如ク 取計 相成度

通電先
号

次
号

191

平井桐直言啟

陸

軍
江川復負言

本件と貴有起案ノ外、
教旨名ニ上ル
者ニ付個別的支給額ヲ電報スルコトハ、
事實上至難ナルヲ以テ、
一復電第四〇四
号ノ程度ニテ満足スル如ク折衝セシメテ
ルニ付茲彙相成度
以上

管理部長

(分類)

電 信 案	第	號	電送第				主管 經濟部長	電信課長		
			年	月	日	時				
干タル處ニシテ個ノ處ニ於テハ其ノ都度返電ノ置	一貴方ヨリノ照會ニ対シテハ其ノ都度返電ノ置	上海電第三八號ニ関シ	昭和	年	月	日	時	宛 上海乘船地參謀長	主任 大陸部長	在外大陸部長 發電係
			平略	件	名	發	發			
外務省	問題付奉勞送還前									

昭和二十一年四月四日起草

抄

雇傭主「雇傭契約上ノ債務及賃銀・不慰金・傷害

慰藉料等）ヲ完済シタル上一部ノ華ノ勞ノ不当金品

要求ニ対シ已ムヲ得ガ支拂ヒタルコトアリ、其ノ詳細ニ

前電ノ通ナリ

二、登参電第七六號ニ依ル中國政府ノ裁定ニ付テハ当方

トシテハ雇傭主ヲシテ雇傭契約ニ無キ多額ノ解散

平当又ハ慰藉料ヲ支拂ハセシムルコトハ不可能ニシテ

トシテハ雇傭主ヲシテ雇傭契約ニ無キ多額ノ解散

本件一團之貴地ニ於ケル終戰ニ伴フ諸般ノ事情ヨリ

最良的ニ

并中國政府ノ裁定ヲ受諾セザルヲ得ガレキ場合ハ

我々トシテハ

之レ已ニ得ガレヌト思料スル尚中場トスルカカ

抑或然

林段

外務省管理局内中

28/4

陸軍省

略號

至急電報譯

四月二三日午前午後一時三十分發
二〇時三十分著 二〇八三〇發
二〇〇〇發

次官宛

發信者

上海東船地參謀長

上海電第一二七號

一復電第四〇四號(電証、經理局日本派遣華工死傷者ニ對スル

支給金額一件)關聯

一南方派遣華工問題ニ關シテハ上海電第一二八號、通中國側八日

下支拂準備中

ニ日本派遣華工問題ニ關シテハ一復電第三九八號、第四〇四號、趣

旨ヲ中國側ニ傳ヘタル所決定留保方諒解ヲ得最後決定ハ

二十三日當地出發歸國豫定、情報所擔當者因崎參事

官ヲシテ詳細中央ニ具申シ中央、指示ヲ俟ツテ決定、豫定ニ付

諒承アリ度

通電先支

參考 次官

(終)

文書 經理

自方、行
信託委託
ヤヤ

意、速者ト
ハ、事務
ハ、事務

外務省

30/4 復終理局

第1号

略號

次官宛

發信者 登集團參謀長(上海)

登集團參電第八〇一號

一、五、ホ、ル、一、裏南洋「ラ、ハ、ウ、ル」ニ「ア、ラ、ス」ヨリ内地經由歸來也、華

工代表者ヨリ九州海運局鹿児島支局發行額面印貨三八九五

圓ノ保管證書ナシ三十七葉ヲ印貨一圓ニ付法幣十八圓ノロ、ト

ニテ交換方申出アリ

ニ本件内地ヨリ何等事前ニ連絡ナク又當地ニ支辨責任者等

存在セズ又中國側ニ容易ニ取合ハル現況ニシテ我方トシテ

當惑ニヤリ

三自今斯種問題ノ發生セザル如ク嚴ニ指導セラレ度

通電先 次官 總軍

中
軍
軍
軍

陸
軍

略
號

第
10
號

緊急電報譯 五月七日午前二時三十分發
〇〇九四〇五點

次官宛 發信者 支那派遣總司令部（南京）

總參電第三五五號

何總司令部ヨリ在日華工ノ有無及在任者ハ其ノ地域別數等ノ現況並
ニ歸還豫定等承知致度旨連絡アリタルヲ以テ至急返煩ハシ度

（終）

199

軍器名	地味大夕指	川口芦削	上砂川	豊臣	二層倉本列	伊藤二砂川	鉄二巻廻	神威	汁掛列	唐島花里二三	名器類	向御嶽	御用	粟米
有残	一	一	一	三	二	一	一	一	六	三	五	五		
陰					一 (九段)一									
附														
刊														
計														
外務省														
備														

所在不明

所在不明
此七番

五
(麻)

二三
(板)

一
(土砂川)

此圖

四一七中
刊所(移)

三二

日 鉄 石	日 鉄 石	牛 草 別	手 草 別	北 草 別	北 草 別	明 治 地 和	昭 和 地 和	昭 和 地 和	昭 和 地 和	昭 和 地 和	昭 和 地 和	昭 和 地 和	昭 和 地 和
=	x	=	四	0	0	-	五	=	-	三	三	-	x
=	(昭 和)			一 四 夕 張	一 夕 張					二 世 保			
				一 夕 張	二 北 張							一 世 保	
	三 (東 張)	丑		一 夕 張	一 夕 張		一 世 保						一 世 保
=	三			x	三		=		三			-	-
							-	五					
	四	=	四	三	x							三	六
	四	=	四	三	x	-	五				三		六

198

昭
和
地
和

